

# 高弾性を実現する

## 機能性ハードコート材

インル  
アカ  
フミ  
成ミ  
大ケ

大成フアインケミカル(千葉・稲生豊人社長)は、これまでUV硬化性ポリマー・オリゴマーとして、アクリルポリマー「8KXシリーズ」、ウレタンアクリレートオリゴマー「8UX-015A」を販

売しているが、新たにUV硬化型ウレタンアクリルポリマー「8BR-500」の開発に成功、販売する。

売しているが、新たにUV硬化型ウレタンアクリルポリマー「8BR-500」の開発に成功、販売する。特にタッチ

パネル部材およびフィルム等に利用されるハードコート材は、高硬度、柔軟性の他、タッチパネルとしての耐久性および耐屈曲性が求められており、これまでのハードコート材設計だけでは困難になってきている。

そこで同社では、ハードコート材にさらなる機能性を持たせるため、アクリルポリマーにウレタンオリゴマーをクラフト化し、UV硬化時の硬化収縮を抑えることはもちろん、硬化後に高弾性な硬化塗膜を得ることが可能となった。

同品は、高分子量体のアクリルポリマー側鎖に、自社で設計開発した数種のウレタンアクリレートオリゴマーをクラフト化し、UV硬化時の硬化収縮を抑えることはもちろん、硬化後に高弾性な硬化塗膜を得ることが可能となった。

パネル部材およびフィルム等に利用されるハードコート材は、高硬度、柔軟性の他、タッチパネルとしての耐久性および耐屈曲性が求められており、これまでのハードコート材設計だけでは困難になってきている。

そこで同社では、ハードコート材にさらなる機能性を持たせるため、アクリルポリマーにウレタンオリゴマーをクラフト化し、UV硬化時の硬化収縮を抑えることはもちろん、硬化後に高弾性な硬化塗膜を得ることが可能となった。

同品は、高分子量体のアクリルポリマー側鎖に、自社で設計開発した数種のウレタンアクリレートオリゴマーをクラフト化し、UV硬化時の硬化収縮を抑えることはもちろん、硬化後に高弾性な硬化塗膜を得ることが可能となった。

同品は、高分子量体のアクリルポリマー側鎖に、自社で設計開発した数種のウレタンアクリレートオリゴマーをクラフト化し、UV硬化時の硬化収縮を抑えることはもちろん、硬化後に高弾性な硬化塗膜を得ることが可能となった。

同品は、高分子量体のアクリルポリマー側鎖に、自社で設計開発した数種のウレタンアクリレートオリゴマーをクラフト化し、UV硬化時の硬化収縮を抑えることはもちろん、硬化後に高弾性な硬化塗膜を得ることが可能となった。

クリルポリマーにウレタンオリゴマーをクラフト化することで、プラスチック基材に対する密着性に優れ、強靱な硬化塗膜を得ることができ、UV硬化型ウレタンアクリルポリマーの開発に成功した。

設計に組み込むことで、透明性、表面硬度を損なわないでUV硬化塗膜に弾性を付与することができ、外部からの応力・歪に対する緩衝性および屈曲性を発揮することが期待できる。さらに、アクリルポリマー部とウレタンオリゴマー部の比率および組成を変えることで、物性をコントロールすることも可能となっている。

同社では、顧客の用途や要望に合わせた幅広い材料設計に対応するため、今後もUV硬化性製品の開発に注力し、製品ラインアップを取りそろえていく予定。また、同品を機能性ハードコート材として高性能・高付加価値分野へ積極的に販売展開していくことで、2015年には売上高5億円を目指している。

問い合わせは同社営業グループ(☎03・3691・3111、FAX03・3691・3160、Eメールinfo@raisel-1.co.jp) 担当。

2012年6月6日 高弾性を実現する機能性ハードコート材 塗料報知新聞に掲載